

会 議 概 要 書

審議会等の名称	平成27年度 第2回磐田市在宅医療介護連携推進協議会
担当部課名	健康福祉部 健康増進課
会議の開催日時	平成27年9月9日(水) 午後7時00分～8時30分
会議の開催場所	磐田市総合健康福祉会館 (i ^{あい} プラザ) 2階 ふれあい交流室2
出席者(職・氏名)	委員：12名中11名出席 事務局：8名中8名出席
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 議事・協議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 磐田市の現状と地域の資源について (2) 在宅医療・介護連携支援相談窓口について (3) 意見交換 4 その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 磐田市内医療機関・介護事業所マップ作成について (2) 地域包括ケアを考えるシンポジウムについて (3) 第3回協議会日程について 5 閉会
配付資料等の件名	<ul style="list-style-type: none"> ○事前配布資料 <ul style="list-style-type: none"> ・開催通知 ・資料1～8 ○当日配布資料 <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・当日資料1～4 ・追加資料 ・多職種連携のための事業所間交流研修参加者募集ちらし
1. 開会 2. 会長挨拶 3. 議事・協議 事務局	健康増進課健康支援グループ長 在宅医療を充実させて地域包括ケアシステムを構築しないと、2025年問題に対応できないということで、法律も整備してこうやって検討会が開かれています。老老介護の世帯、あるいは老人1人ということもあるので、持ち家があってもなかなか最期まで1人ではいけないのではないかなど、そういった色々な問題があります。そういった問題を我々で考えて、何かできたらいいということでこの会議があります。ご審議のほどよろしく申し上げます。 (1) 磐田市の現状と地域の資源について 別紙事前配布資料【資料1～6】について説明 補足として追加資料について 引き続き資料について説明。

会長	<p>【資料4】の説明 (以下、資料4参照)</p>
委員	<p>【当日資料4】について説明 死亡数は増えて、右肩上がりで増えてきています。重症化が多いということと、機能分化でできる限り早くということがあると思います。 往診患者数ですが、これはグループホームだとかサ高住なんかも入っています。 最期の何日間かは入院させてしまうことが多いです。ほとんど在宅と言えは在宅なんですけど、こういった数になります。</p>
会長	<p>在宅やっていると、痛がったり苦しんだり、がんの人で若い人だと割と出るもんですから、見てられないというパターンで、お願いしてしまうことも結構あるんです。</p>
委員	<p>そうですね、先生方からも最期の最期のところで入院というのが多いと思いますので、ほとんどそれは在宅と言っても僕はいいのではないかと思います。本当の最期のところだけ看させてもらって、ということが多いですね。</p>
会長	<p>訪問薬剤指導が24もあるというのは、訪問薬剤師はいるけども、実働はそんなになんないということでしょうか。</p>
委員	<p>1件くらいだとやっているというところが少しずつあって、この件数になっているのかなと思います。</p>
会長	<p>せっかくですので、みなさんに意見をいただきたいと思います。</p>
委員	<p>なかなか在宅、24時間というのは大変だということがでていていると思います。それに伴って、病院あるいは介護、そういったところとの連携ができれば、変わってくるのではないのかなと思います。</p>
会長	<p>歯科の方からはどうですか。口腔ケアの方は。</p>
委員	<p>口腔ケアの需要はすごく感じてはいるのですが、現実的には病院からの依頼というのは歯科にはなく、個々のお家からの希望ということで、市内の訪問診療をする13件で行っているということで、ニーズとしては病院とかその中にあるのではないかなと思っていますが、そういうところに歯科が入っていけるのかどうか。</p>
会長	<p>訪問診療をしていると、歯まで気が回らないのだけれど、ケアマネがしっかりしていて、どんどん話を進めていっているケースもあります。また色々とニーズがあるのでとはと。</p>

委員	そうですね、ニーズの掘り起こしは必要だと思います。
会長	訪問看護からいかがでしょうか。
委員	<p>10月にもう1か所増える予定です。磐田市内全体のステーションが、質がアップできるように一緒に学んでいけたらいいかなと思っていますし、仲間としてサポートしていかなければ、と思っています。</p> <p>グループホームでの看取りも連携で訪問看護ステーションで行っております。グループホームや他の施設での看取りをもっと増やしていくためには、強化していく必要があるのでは、行政側からも支援をいただいで、一緒に学んでいけるような体制を作っていくのが必要かなと思っています。</p>
会長	<p>今後、自宅で亡くなる方よりも、グループホームで亡くなる方が増えるだろうと言われているので、そういったことは非常に大事ですよ。質の高い介護士さんがいないと、グループホームではとても看られないということですね。</p> <p>包括からはどうですか。</p>
委員	高齢者のお宅に伺ったりとか、介護保険を使っていない二次予防の方であるとか、まだまだ元気な方のところに伺ったりとかしていても、最期を自宅でと考えているという雰囲気は、なかなか汲み取れない感じがしています。
副会長	アンケートで聞かれば、そう答えるけどそれが間近に迫っているときの感覚ではないということですかね。
委員	<p>同じ意見があって、在宅医ということは考えていないというふうには、現時点でははっきり言っていて、最終的にはホスピスに入りたいというふうにおっしゃってたりするので、最期を病院でと考えていらっしゃる方が多いのかなと思います。</p> <p>訪問してくださる先生や訪問看護ステーションの方達のバックアップがなければとても無理だと思いますので、そこら辺が充実しないと実感として本当に家でということは難しいのかなと思いますし、高齢者世帯や高齢者を抱えている家の人の感覚は、最期は病院でと思っている方も多いのかなという風に感じます。</p>
副会長	自分の希望は家で死にたいと思っても、現実を考えるとホスピスだったり施設だったり、というのは当然あるので、そこはギャップがあると思います。ただ、希望としてはやっぱり家で死にたいというのはあると思うし、本音では思ってもそこはまだバックアップできる体制がないし、周囲のことを考えると現実とは違うかなというのはあると思います。

委員	自分はそうだとし、自分の親となったら目の前でどうかなったりすると病院にというふうと思う。
副会長	そういう人、多いですね。やはり色々ありますし、自分たちの都合でなかなかいかなかったり、というのは結構あると思います。
会長	委員どうですか。
委員	病院で最期を迎えようと、自宅で最期を迎えようと、どちらもメリットやデメリットがあって、その部分に具体的に話を詰めるという機会がないので、不特定多数のアンケートでは答えられても、直接そうやってきた時に、誰がそれを聞くんだろうという段階になってくると、なかなか触れられないデリケートな部分になってきてしまって、だけど本当は、在宅での選択をする前に、正しい情報を提供して、選択をするということが本当に必要なのではないかなど。先生と看護師さんと、もちろん生活を支える意味では介護も必要でしょうし、今は薬剤師さんに本当に支えてもらっている部分があるので、チームがしっかりできていかないと、選択するチャンスがないと思います。きちんと伝えていくチャンスがないといけないのかなというのを感じます。
会長	訪問診療する医師の数がまだまだ整っていないので、さあどうぞ、在宅へ行きましようなんて、言いづらい部分もあるので、それは今後みんなで頑張っていましよう。 委員、どうでしょうか
委員	私が知っている例では、病院である程度過ぎて、最期の10日くらいはいい状態を見て在宅に帰って、そこで看取ってあげる。そのためには、家族も家で看取りたい、本人も家で過ごしたい、そういうものをサポートしてくれるドクターもいて、訪問看護師さんもいる、孫や親族に見守られて最期を看取られていくという地域があるということを知っていて、すごいなと。本人が望む死に方、看取られ方をしてあげられたら、残った方もすごく幸せ感というかそういうものが残るのではないかなと感じました。
会長	そういう状況を踏まえてこれから在宅医療介護連携をやっていかなければならないので、議題の2番ですが、在宅医療・介護連携支援相談窓口について、市の方から、その前に病院の取組についてお願いします。
事務局	(2) 在宅医療・介護連携支援相談窓口について 【当日資料1】について、説明。(磐田市立総合病院入退院支援について)

会長	<p>磐田市でMSW等が退院から在宅へうまくつなげているということがわかったところで、次に新しく作る窓口について、どのような機能を求めるのかという話に行きたいと思います。</p>
事務局	<p>【事前送付資料7・8】について説明。</p>
会長	<p>今のような形で、相談窓口を作っていくということでしたけども、今回直営という形ですっきりとしましたけれども、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>来年度そのように設置をして、業務量がどうで専門性がどれくらいだということも検証しながら、将来に向けてどういう形態がよいかということをしっかり検証していきたいと思っています。</p>
会長	<p>これについてご意見ありますでしょうか。</p>
委員	<p>資料8の1番最初のところで、相談窓口の対象者のところに、地域の医療・介護の関係者、地域包括支援センター等とあるので、これをすべて網羅された方がいると、多分地域のケアマネさんとか色々な方が相談されるのではないかなと思います。</p>
事務局	<p>例えば、病院で先進的にやっている部分もありますので、職員を派遣して、どういう業務をやっているのか、あるいは事業所の方にもお伺いして、少しでもこの人だったら相談できるというような職員を養成していかなければならないということがありますので、時間がかかる部分があるかもしれませんが、そういう職員をあてながらやっていきたいと思っています。</p>
4. その他	<p>(1) 磐田市内医療機関・介護事業所マップ作成について 【当日資料2】について事務局から説明。</p> <p>(2) 地域包括ケアを考えるシンポジウムについて 【当日資料3-1、3-2】について事務局から説明 議題にはないが、事業所間交流研修について研修申込受付中。</p> <p>(3) 第3回協議会日程について 2月10日(水)に決定</p>
5. 閉会	
備	考